附属幼稚園だより 第11号

令和5年1月31日発行　文責:室野亜津子

「したい　知りたい　やってみよう」
がいっぱいの幼稚園

3年ぶりの観劇会

令和２年度も３年度も新型コロナウイルスの影響で観劇会ができませんでした。そして、やっと今年度に実現できました。

熊本県から「人形芝居かすぺる」に来ていただきました。１台の車に舞台装置やライトや人形などをぎっしり詰めて、３人の劇団員さんが乗って来られました。いつもの遊戯室が、別世界になり、子どもたちは瞬く間にその世界に引き込まれていきました。子どもたちが「もういいかい」と呼びかけると「もういいよ。」の声で始まりました。導入の話術が素晴らしく、子どもたちは大笑いしていました。２本立てで、１本目は知りたがりのゾウの子どもが主役の簡単なお話、２本目がぶんぶく茶釜でした。音楽が流れると、自然に手拍子をし、たくさん笑い、お話の世界に反応し、夢中で見ていました。

子どもたちが喜ぶ姿を見て、園長の私はなぜか涙が出てきました。「プロの人形劇を見て、子どもたちはこんなにも喜ぶのか。もうすぐ卒園する年長さんは、入園してから１度も観劇会がなかったけれど、最後の年に見せてあげることができた。実現できて本当に良かった。」と。きっと心に残る１日になったことでしょう。

附属学校園の連携

附属小学校は今年度から、入学選考が第１次選考のみとなりました。また、１学級の人数を３０人から２６人に、複式学級は８人から６人に減らしました。少子高齢化という社会的な状況、令和の日本型教育として個別最適な学習が求められていること、長崎県の地域性である複式学級などへの対応可能な教員の養成と研修機能の強化など、複数の視点から検討し、長崎県の小学校の状況を参考に定員の変更を行いました。

一方、子ども家庭庁がつくられたことからも言えるように、「幼児教育」や「幼児期と児童期の接続」の重要性がますます注目されている中、長崎大学教育学部の附属学校園がその教育研究の成果を地域に発信していくことは、社会的責務と言えます。そのためにも、幼稚園・小学校・中学校の連絡入学により、今後も学部と附属学校園がしっかりと連携をし、１２年間の子どもたちの育ちを支えていきます。

留学生との交流

　本園が長崎大学教育学部の附属であることを生かして、大学の留学生との交流を始めてみました。現在、４名の方が来てくれています。日本語があまりできない方もいますが、子どもたちは言語の壁を軽々と越えて、一緒に遊んでいます。インドネシア、パキスタン、ナイジェリア、台湾とバラエティに富んでいます。地球儀を見て「インドネシアはアジアだよ。」「日本の下にあるってことは、この床の下にずーっと行ったら着く？」など、外国に対して新しい関心が引き出されています。

　留学生との交流が、刺激となって子どもたちの多様性や可能性を広げることにつながりそうです。（本園ホームページの「さくらなみきニュース」にも記事を掲載しています。）

２月行事予定

１（水）　子ども会（年長）
２（木）　留学生との交流
３（金）　豆まき
７（火）　リカレント研修
８（水）　留学生との交流、評議員選出（年中・年少）
９（木）　留学生との交流
１４（火）　子ども会（年中）午前保育（年中）
１５（火）　子ども会（年少）
１６（木）　ほしの子ランド　マーカーペン販売
１７（金）　交通安全教室（年長）
２０（月）　第４回育友会全体会
２１（火）　お別れ会（年長・年長保護者）
２４（金）　卒園式練習参観（年長・年中）